

山梨大学教職大学院

第16回教育実践フォーラム

教育の新しい波に対応する教育実践のあり方

【日時】平成30年2月10日(土) 10:00~17:00

【場所】山梨大学甲府西キャンパス

〈教職大学院生 研究発表〉 総合研究棟 (Y号館) 1階 Y-11, Y-12, Y-15 教室
午前の部 10:00~11:35 (受付開始 9:40)
午後の部 13:10~15:10 (受付開始 12:50)

〈進学相談〉 総合研究棟 (Y号館) 1階 Y-14 教室 (研究発表時間内)

〈講演〉 N号館 1階 N-11 教室 15:30~17:00 (受付開始 15:00)

「英語教育の新展開—音声指導から文字指導へ—」 長瀬 慶來 教授 (山梨大学教職大学院)

【主催】山梨大学教職大学院

【後援】山梨県教育委員会

【対象者】どなたでも無料で参加できます。(当日参加可)

研究発表または講演のみの参加も可能です。

アクセス

[バス] JR 甲府駅北口から「武田神社」または「積翠寺」行きに乗車、「山梨大学」下車(約5分)

[徒歩] JR 甲府駅北口から武田通りを北上(約15分)

【臨時駐車場】 山梨大学教育学部 附属特別支援学校 校庭 (9:20~17:30)

※構内駐車の利用を希望される方は、本学特別支援学校校庭を臨時駐車場として開放します。

※会場のあるキャンパス内には駐車できません。

※台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関の御利用をお願いします。

山梨大学教職大学院第16回教育実践フォーラム

教職大学院生 研究発表

平成30年2月10日(土) 山梨大学(甲府西キャンパス)総合研究棟(Y号館)1階

	会場 Y-11	会場 Y-12	会場 Y-15
10:00 ～ 10:20	清水貴美子(*中) 外国語教育における小中連携 のあり方—小学校での学びを 中学校でいかすために—	内田 圭 生徒の学習意欲向上に向けたコ メントの改善—自主学习ノート および生活記録へのコメント記 入を通して—	神戸博貴(*小) 「主体的・対話的で深い学び」をつ くる小学校社会科授業のデザイン —思考ツールを活用した授業実践 を通して—
10:25 ～ 10:45	藤城妙子(*高) 小学校英語教育における「書く こと」の指導の工夫	保坂加奈子(*高) 複数作品の比べ読みを通して生 徒の考えを広げる高校古典の授 業実践	矢ヶ崎 憲(*中) 中学校社会科歴史的分野における 「問いの構造化」の意義と方法—単 元学習の実践と分析を通して—
10:50 ～ 11:10	芦沢友也(*高) 生徒のモチベーションを促進 させる理論を授業に応用した 試みの考察	浅川 学(*中) ルーブリックを活用した国語科 授業—中学生の主体的な学びを 育むために—	小笠原 咲 社会科としての「主体的・対話的で 深い学び」をどう保証するか—小学 校第4学年地域学習の場合—
11:15 ～ 11:35	永田真一郎(*高) 「気づき」を促すライティング 指導	土屋雄一(*小) 通常学級における特別な支援を 要する児童への支援の在り方	
昼休み			
13:10 ～ 13:30	藤巻良輔 小学校算数科におけるペア・グ ループ活動による協同学習— 学習環境を分析の視点として —	武居拓己 運動・体育嫌いを減らす小学校 体育科の在り方について—運動 有能感に着目した授業づくりを を通して—	太田 圭(*小) 初等英語教育における部分的 CLIL を取り入れた授業実践—社会科と の統合実践を通して—
13:35 ～ 13:55	末木貴大 算数科「概数」の授業内容・方 法の構想と実践—「目標と評価 の一体化」をどのように図るか —	有野秀一 高等学校体育における「考え る」・「気付く」に着目した授業 —選択体育でのバレーボールの 実践—	野木紹吾 中学校における生活記録ノートの 機能と教師の役割—生徒の記述を 手がかりにして—
14:00 ～ 14:20	河西絵美(*小) 児童が学び方を身につける授 業をめざして—算数の授業を を通して—	善積圭太 中学校理科における生徒が発言 しやすい授業づくり	名取美優 望ましい人間関係を形成する手立 てについて—小学校道徳での授業 実践を通して—
14:25 ～ 14:45	水上拓紀(*中) 学びの定着に効果的な振り返 り活動の実践—振り返りシー トの作成・実践を通して—	鶴田真樹(*小) 初等理科授業における考察の充 実—アーギュメントスキルを用 いて—	齋藤知美(*小) 子どもの学びの充実をめざした授 業づくり—教室の中の対話的関係 の構築に焦点をあてて—
14:50 ～ 15:10	近藤千佳(*中) 教師が主体的に学び合える中 学校校内研究会の取り組み	森澤公美子(*高) 高校生の主体的な進路選択を促 す授業実践—専門学科における 総合的な学習の時間を通して—	

* *印の発表者は現職教員の院生です。小・中・高は校種を表しています。

*自由に会場(教室)を移動して、関心のある発表をご覧ください。

*研究発表と並行して、進学相談を Y-14で行います。

